

## 第2回 新潟市會津八一記念館指定管理者申請者評価会議 議事録

1 開催日時 平成30年10月16日(火) 午後10時00分から午後0時00分

2 開催場所 新潟市役所分館1階 103会議室

3 出席委員(5名)

石本 貴之(特定非営利活動法人新潟NPO協会 事務局長)

菊野 麻子(フリーアナウンサー)

木伏 隆 (アイシスネオ会計税理士法人 代表社員・所長)

池主 透子(TC-wave 代表)

仲川 健治(新潟県立万代島美術館長)

4 文化スポーツ部文化政策課出席職員(5名)

課長 塚原 進

課長補佐 渡辺 敦子

管理チーム係長 工藤 隆生

管理チーム主事 羽賀 祥太

管理チーム主事 林 孝一

5 傍聴者 0名

6 会議録(公開部分)

申請者	<入場>
高岡事務長	<p>會津八一記念館の高岡と申します。今日は私と学芸部の喜嶋と総務の渡辺と3人でまいりました。よろしくお願いいたします。</p> <p>今ほど、お手元にお配りしたものは、今、開催中の展示の風景を写してまいりました。「奈良大和路の美」という展示を開催しております。書は會津八一ということで、奈良と非常に深い関係がありまして、今回の展示も奈良の写真家の作品を主体とし、「奈良大和路の美」と、會津八一が奈良の地で詠んだ歌が基になった奈良の地及び仏像を一堂に集め展示しております。奈良ということで、我々新潟県民にとってはあこがれの地といえますか、修学旅行以来というようなことで親しみのある土地なのですが、人数的にいいますと、やはり入りがいいような感じを受けております。先月13日から始まり、ちょうど一ヶ月経ちました。いまのところ約685人と700人近いお客様が入っております、まずまずの人数が入っているということで、どういった分析といいますか、會津八一ということもありますし、奈良というブランドというか、地名の知名度といいますか、そういったことでお客様が入ってきていると思います。展示するにあたってはさまざまな角度から展示をやりますけれども、一つのキーワードと</p>

なるのが奈良ということでもあります。ご存じのように、新潟市と奈良県とは文化交流協定を締結している間柄でありまして、私どもはその一つの役割を担っているという自負があります。そういった観点から、今回、秋というシーズンもありまして、奈良に焦点を当てて、お客様に見ていただきたいということでやっております。人数的に申しますと700人近いということで、土日には30人、40人と入ってきておりまして、最近にはない感じのお客様が入ってきております。現在の展示についてのお話でございます。

會津八一記念館は昭和50年、四十数年前にできまして、専門の学芸員、館長をはじめ會津八一のそのものの顕彰、普及ということで活動してまいりました。財団としてはそれだけの蓄積と実績があると思っておりますし、近年では奈良及び京都に石碑を建てるといったつながりを深める意味で、あるいは會津八一の業績、作品の普及という意味も込めて関係を強めてまいりました。半年前になりますけれども、この3月には京都に初めて歌碑を建てさせていただきました。ご存じの、京都駅の南側にある東寺にようやく、京都で初めての歌碑を建てることができました。紆余曲折ありまして1年以上かかってようやく建てたのですけれども、東寺様の反応を伺いますと、初めての歌碑だと。夏目漱石など有名な人の歌碑は建てていないのだけれども、會津八一ということで建てたと。お客様の反応はどうですかという、こんなところを書いてあるのだなど……逆にいうと目に付くところに、なじんでいるのだけれども目に付いて、東寺の話題といたしますか、一つの名所となっているということを知っております。それだけ會津八一は県内に限らず奈良、京都のその名前が知れ渡っている。我々が考えている以上に、京都と奈良というものが、特に奈良ですけれども、非常に関係の深い、ひとたび奈良のお寺に行きますと、會津八一さんと非常に親しみを込めてお話をしてくれます。會津八一記念館ですというと、どうぞというくらいに非常に関係が深く、向こう様から見ると親しみを携えて迎えてくれるという立場になっております。それだけ存在理由といたしますか、我々がここで活動する、事業を展開することは非常に意義があると私どもは考えております。

しかしながら、皆様も會津八一というと、亡くなったのが昭和31年ですから60年以上前になります。我々からみても歴史上の人物というくらいになっておりまして、ましてや、若い世代、30代、40代しかり、私どもも60代ですけれども会ったことはありません。そのくらいの歴史上の人物になっているということで、いかにこれからの人、知らない人、あるいは若い人たちにどうやって普及していくか。奈良へ行って分かる人はいるのだけれども、新潟でどうやって若い人たち、中学・高校生に知

ってもらおうかというあたりは非常に大きな課題になっております。そういう意味でも、今回の奈良をテーマにした展示は中学・高校で呼びかけるにはふさわしい題材かと考えております。會津八一のことを勉強して、奈良のことを勉強して、京都のことを知って、修学旅行へ行ってくれば、つながりは分かりますよと。向こうの地へ行って、會津八一の足跡をたどってもらえれば、會津八一というのがよく分かりますよということで、今、中学・高校に向けて発信をしているところであります。学校によっては前もって勉強するところもありますし、京都・奈良へ行ってお寺へ行きたいのだがという話を持ってくる学校があります。そういうところに対しては、お寺様にお話をしておこうかということでつながりを深める役割も果たしております。一つのシンボリックなものが奈良であると。そこに會津八一がいたのだということを意味しているわけであります。

では、どのような展開をしていくかということですが、さまざまな資料にも書きましたけれども、展覧会を4回企画しております。春、夏、秋、冬という形で展開をしております、一つは特別展ということで、大がかりに、手間暇をかけて、関係するよその館、あるいは個人の団体から作品を借りて、一つのテーマに沿ってやる特別展であります。今年は6月から9月にかけて、東京の中村屋サロン美術館と深いつながりで、そこの作品を借りて、中村屋サロン美術館と會津八一という形で展開いたしました。現在、中村屋サロン美術館では會津八一展が開かれています。それくらい深い関係がある美術館や博物館もあり、「交換展」という名前をつけておりますけれども、それぞれの所属作品を交換しながら展示するという形を、毎年ではありませぬけれども、シェアする形で実施しております。一昨年は三重県津市にある石水博物館で交換展という形で會津八一展をやってもらいましたし、石水博物館にある會津八一の作品なども含めて借りて展覧会をやりました。大がかりな作品の交換ということも含めて特別展を年1回やっております。夏にやったり、あるいは秋にやったりという形ではあります。

それ以外の3回は企画展ということで、これは主に所蔵作品です。1万点から作品がありますので、それを順次見せるといいますか、テーマに基づいて作品を主体に、あるいはよそから借りたものをそこに混ぜて企画展をやっております。今、写真をお見せしました、奈良大和路の美というものを、これも奈良にある写真専門の会社のカメラマンが撮った写真を借りてという形でやっております。もちろん、會津八一が書いた書、歌を詠んだ書がありますから、それを基に構成をしております。そういった形で企画展を年3回やっております。これが主な、一番メインの事業になります。そ

れ以外には、細かなものでは、展示に絡んで講演会というものをやっています。各展示に際しまして、1回ないし2回、そのテーマに沿ったあるいは関連の研究者や作家だとか、そういった先生方を招いて、展示に関する講演会を開いております。これが大抵2回から1回ですので、年に8回ないし10回くらい、展示に関連した講演会をやっていると。會津八一の場合は非常に多く、1回で100人から150人のめどで募集し、展示を見て、なおかつ講演を聞いてもらうという形で連動させてやっております。企画展ごと、展示ごとにやっています。

ほかの事業といたしまして、大きなものではありませんけれども、写真コンテストというのがあります。なぜ、會津八一と写真なんだということなのですが、テーマにありますけれども、會津八一の歌を写すと。歌を詠んで、そのイメージを映像にするという、ある意味では難しい、面倒なテクニックを求められると。これがこの秋から来年冬にかけて行われます。大抵百数十作品が寄せられ、その中からいい作品を選ぶ。それを館内に展示するだけではなく、全国というわけにはいきませんが、東京、奈良、京都、去年から四国の高松で展示をして見てもらうと。奈良、東京ですと、東京は中村屋サロン美術館ですので會津八一の作品もあるのですが、冒頭申しましたように奈良は非常にゆかりのある地ですので、奈良県内に2か所、展示の会場を借りまして、巡回展ということでやっております。昨年からは京都の三千院、こちらもゆかりの地ですので、そこで展示をしていただいています。あとは高松。なぜ高松かというと、八栗寺というお寺様の鐘に歌が刻まれています。それが會津八一の最後の作品です。その住職が非常に熱心で、ぜひ高松でも展示をやってくれということで、都合、東京、奈良県内、高松市内でやりました。今年は県内でもありましたけれども、上越市でやりました。11月には胎内市でやります。もちろん、期間中には12月から3月にかけては記念館の中で展示と一緒に合わせて写真と作品展というものをやっております。こういったところが大きな事業であります。

今、参加型ということがいろいろな場面で言われておりますけれども、展示に際しても、展示を見るだけではなくて参加型、ワークショップといったものを企画しております。何をやるかということ、會津八一と絵手紙というのはどういう関係かと。小池邦夫という絵手紙の先生がいらっしゃいますが、小池邦夫先生が絵手紙に目覚め進むことになったのは、會津八一の手紙に添えられた絵を見て、これは自分が進むべき道だと思ったくらい衝撃的な出来事だったそうであります。小池邦夫先生は書をやると思って東京へ出てきたけれども、手本を写しているだけの書というのは何なのだろうと疑問を持っているところで、會津八一の手紙、はがきや書簡など文字のそばに

絵が描いてあったと。これはひとつの書のある姿ではないかということで触発され、そこから絵手紙を始めた。絵手紙という言葉は小池邦男先生が考えられたのだと思うのですけれども、その源流は會津八一の書などの作品だったといわれております。絵手紙の講座は非常に人気の講座でありまして、新潟日報のカルチャースクールにもありますけれども、県内あるいは全国で絵手紙の愛好者が多いものですから、私どもも、會津八一の書画を基にして絵手紙をやってみようということで、個々何回かやっております。非常に参加希望が多く人気の講座になっております。ただ、講師の先生の関係で、100人も200人もやれないものですから、十数人がいいところなのですけれども、そういったものを企画しております。

今年初めてやったのですけれども、私どもは直接歌碑の拓本をとることはできませんが、それに近いものを試してみようかということで初めてやりましたが、拓本講座です。これはいってみれば版画のように板に會津八一の文字を刻んで、それを拓本にとるということを試してみました。見に来る方はそれだけでも満足なのですけれども、実際にそういったものを作ってみる、書いてみる、あるいはこしらえてみる、とってみるということにも非常に関心があるようで、絵手紙と並んで拓本講座も非常に人気がありました。かといって、これを毎月やるわけにはいきませんので、せいぜい年に1回か2回といった形で、参加型、体験型の催しを設けている。体験に来る方は、ついでにといいは何ですけれども、展示を見てもらえれば、あるいは作品を作って、飾ることによって、お仲間が私も参加して、記念館に飾ってあるということが口コミで広まれば観覧者の増加につながるだろうと考えています。参加者こそ少ないのですけれども、目先を変えるといいですか、変化をつける意味でも、展示以外の体験講座を計画しているということがあります。主な事業は展示と講演会、体験講座が大きな柱になっております。あとは、これは求めに応じてということなのですが、学校あるいは団体、サークルなどから講演をしてくれということで数多くお声がけいただいております。小学校、中学校、あるいは公民館講座、市政さわやかトーク宅配便というものがありますが、それを通じてのもの、それ以外のものでも會津八一のことを話してくれということで、学芸員二人と私くらいの少ない人数なのですけれども、手分けをして會津八一はこういった人だということを一生涯懸命話してきております。

大ざっぱな概要、展示、講演会及び体験講座、写真コンテストといったものが柱になっております。今、私どもの課題となっているのが、冒頭申しましたように、會津八一もすでに亡くなって60年以上経っておりますので、歴史上の人物になっていると。どうするかということで、小学生は来るところもありますけれども、中高生に対

してどうアピールしていくかというところを模索しているところでもあります。冒頭申しましたように、学校からお声がけくださるところもあれば、なかなかお出にならないところもあるものですから、1件1件回るわけにはいきませんので、手紙作戦ではないですけれども、展示ごとにチラシなりを送る。校長先生あて、修学旅行あるいは美術、書道の先生あてに手紙を書きまして、ぜひおいでくださいということ呼びかけております。そうやって来てくれる学校が毎年ありますけれども、毎年来るところもあれば、去年来たけれども今年は来ないということもあります。そういったところにはピンポイントで、去年は来てくれましたということで、今年の秋も各小学校、中学校へお手紙を出したところでもあります。そういうことをやって、少しでも會津八一の名前を知ってもらう。先生方も転勤がありますので、なかなか引き継ぎが難しい面もあるのでしょうけれども、そうも言っていられませんので、毎年、何度でも手紙作戦などで呼びかけをしているところでもあります。

呼びかけだけではだめじゃないかということで、今年は普及の材料として、前もってお配りした資料がありますけれども、會津八一とはどういう人なのだと。何となく難しそうな顔をして怖そうなおじいさんだなどというくらいのイメージなのですが、実はこういう人だったということ、私どもが三つの口でしゃべるのは限度があります。やはり冊子、書物なりにしないといけないということで、これからの課題はいかに隅々まで情報を行き渡らせて見てもらうかということで、一つは會津八一でたどる生涯というものをおつけしましたが、生まれてから晩年までの生涯が、写真が主体でありますけれども、簡単に書いてあります。これを読めば分かるのですけれども、これを記念館におくだけでは宝の持ち腐れになりますので、これを冊子としてこしらえまして、各学校に普及の材料として差し上げようかと考えております。書家であるとか歌人であるということは分かるのですけれども、具体的に、どこで生まれて、何を、どこで何を学んだのかというところがまだ分からないところがたくさんある人物かと思えます。意外におちやめであったとか、シャイであったとか、人を好きになり恋をして破れて、それがもとで歌を詠んだという人間くさいところもあります。そういったものを含めて、これから冊子を作って、学校あたりへ差し上げたらどうかというところで計画をしております。一人の人物の生涯をたどるのは難しく、研究者や学者の先生が分厚い本を作っております。それを小学生や中学生あるいは高校生が見る機会はないと考えていいと思います。

ではどうするかというと、我々が普及活動、新潟市の名誉市民の人がいたのですよということを含めて業績を広めるには、分かりやすい言葉で、小学生が読んで、なる

ほど、こういうおじさんがいたのかということを知ってもらうには、こういったものを作るしかないだろうということで準備を進めておりまして、これができた暁には、中学・高校に配ることを考えております。これを見て、會津八一が分かってもらえればということです。中でも、書家であり歌人でありますけれども、一つには教育者であったと。大学を出て、上越にある有恒高校で三、四年ほど英語の教師をいたしました。會津八一と英語というと、えっと思われると思いますが、そこが出発点として、そうなのだというあたりがあります。英語の教師、つまり英文学を修めた先生だということから始まって、やはり知られていない部分がある。その辺を出発点として英語の教師をやりました。有恒高校から東京に帰りまして、何を教えたかということ、書ではありません。短歌でもありません。やはり英語や修身を教えた。道徳の先生になった。先生方が大勢おられて、たまたまそれにあたったのかもしれませんが、英文科を出て英語の教師をやり、早稲田中学校、大学で美術を教え、道徳を教え、英語を教えた。ぱっと考えると書の先生かなとか、国語の先生が短歌でも教えたのかなというふうに思われがちなのですが、実はそういった背景があって、そういう経歴をたどっていました。道徳の先生であったということは堅い先生かなと思われるのですが、実はそうではなかったというエピソードもたくさん残っておりまして、そういった會津八一の側面をこれから知ってもらうことが、我々、會津八一記念館の、作品がいろいろありますよ、こんな歌を詠みましたよではなくて、こういった人物だったんですよと。我々新潟市民にとっては、戦後の10年しかなじみがないといえますか、青年、壮年時代、65歳になるまで東京にいましたものですから、県民にとってはややなじみが薄い部分があります。そこへもってきて、どういったことをやったかということもあまり知られてない。英文学の先生であったと。あるいは道徳の授業をもっていたというあたりも含めて、これ以上に、會津八一の人間的な部分、人となりの部分を知ってもらって、我々新潟市民の先輩にこういう人がいたのかという認識を、もう1回、中高校生あたりに深めてもらいたいと私どもは考えておりまして、一つにはこういう冊子を作りたいと。

もう一つは、それを展示で展開できないかということ、會津屋ってなに？料亭ってなに？と。皆さんそう思われるでしょう、サウスポーであったとか、乗馬をたしなんだとか、スポーツとも関係があったとかというあたり。書や歌の作品以外の部分をもっと知ってもらう。それが展示のコンセプトではなく底流においていきたい。こういった作品を書きました、こういったつきあいがありました、こういう作品が生まれましたというだけではなくて、會津八一は教育者として、書家、俳人として、

もちろん人間としてこういう人であったというところに力を入れて、今後の展示の底流においていきたいと、職員、学芸員ともども話をしているところであります。意外な面があったのだということを知ってもらえれば、そこから會津八一というものの人間性、人柄に触れてもらえる。いかつい顔をしておりますけれども、実はやさしい人物であったというあたりも知ってもらえればと考えているところであります。それを資料としてつけたものであります。意外な面が知られていないと。新潟市名誉市民第一号に選ばれたということがあります。そのようなところが會津八一の知られざるどころです。私も知りませんでしたけれども、新潟市民の多くがまだまだ知らないところがある。

知らないでいいかという、私どもがいつも思っているのは、郷土への誇り。新潟県は魅力度ランキングで31位だったそうで、もっと上かなと思ったので、やはり発進力が弱いのか、あるいは我々一人ひとりがその辺に誇りを持ち得ていないのか。持っていて外へ出せないのか。誇りの部分でいうと、何を誇りにするかという、例えば仙台の伊達の殿様だとか、あるいは金沢の前田の殿様だとかというものはありませんが、実は何もない。何があるか。立派な人物がいっぱい出ているじゃないかと。こういうことを残した、こういうことをやった人物がたくさん出ているよと。その中の一人に、我々の先輩の會津八一という人が名誉市民でいますよと。歌にも書にも絵にも、あるいは教育にも美術にもいろいろな部分で業績を残した人物はいないじゃないかというあたりを若い人に知ってもらって、それを誇りとしてもらいたいということが一つあります。物はなくても、場所はなくても、立派な人が出たと。文化を育てた人が出てきたじゃないかと。新潟市名誉市民の第一号でこういう人物がいというあたりをもっと知ってもらう。それを誇りに持ってもらうには、我々も文化を担う立場として、あるいはちょっとだけでも教育という部分の役割を担えるなら果たしていきたいと考えております。誇りを持って會津八一を語る人物はたくさんいますけれども、會津八一は新潟市の名誉市民第一号になったと。一つのことに秀でている人物は多いですが、あれこれたくさんのもので独自の道を開いている。生き方も含めて、曲げもせず、埋もれず我が道をいった會津八一。その生き方も含めてたくさんの業績を残した會津八一を知ってもらうことがこれからの、これまでもそうなのですが、會津八一記念館の大切な役割だと思っております。

木伏委員長

どうもありがとうございました。

これより、ヒアリングへ移らせていただきます。質問等ある委員の方は挙手をお願いいたします。

菊野委員	<p>ご説明ありがとうございました。私も奈良へ行く機会がありまして、奈良を訪れた際に、確かにお寺さんから、會津八一の碑がありますと説明がありました。先日の興福寺中金堂落慶の際にも多川貫首自らが會津八一の名を引用して、仏の庭を再構築することの重要性についてごあいさつされました、先ほどのお話のとおり、八一についてももう少し多くの市民並びに全国の方に知ってもらうことの重要性ということが、今までのお話を伺ってよく理解できる場所なのですけれども、やはり課題となっている、これからの若い世代に対しどのようにアプローチしていくか。手紙作戦をしていらっしゃるというご苦労も分かるのですけれども、こちら申請書類の中で、2019年度達成目標7,200人に対し2023年度は8,500人と1,300人プラスとなっておりますけれども、こちらの数字で示されている集客見込という点、新しい切り口で、若手にさまざまな浸透を図っていく、展示方法を工夫する。そういった点について、どのようなことを考えていらっしゃるのか。プラス1,300人の目標を達成するために、新たにどのようなことを考えていらっしゃるのか、もう少し根拠を踏まえたご説明をいただけないでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>数字は前の年を基にした努力目標といいますか、減らす目標というのはあり得ないわけで、毎年少しでも増やしたいという気持ちの表れとして増やしていきたいという、根拠といわれるとなかなか難しいのですけれども、もちろん、今年を反省して、踏まえて、この年はなぜ少なかったかということが一つの検討課題だと思うのですけれども、それを基にして、先ほど申しましたように、會津八一とはどういうところを、作品がいいですよとか、歌を詠みましたよではなくて、底流に、會津八一という人はこういう人だったということを分かってもらうところを、若い人に、こういう人がいたのか、それなら行ってみようかという、淡い期待といっちは何なののですけれども、そういった形で呼びかけて、會津八一そのものを浸透させることによって、中学校あるいは高等学校の生徒に来てもらうことしか、今のところないわけでした、根拠といわれると、冒頭申しましたように、前年の数字にプラスをしてという、やや期待値を含めた数字ということになります。</p>
菊野委員	<p>分かりました。関連して、児童向けに素朴な疑問に答えるQ&amp;A方式の冊子を部内で担当して作るという記載があるのですが、これはすでに作ってあるものなのか、これから作りたいとお考えなのでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>今、展示室の入口のところにA4の紙、これだけのものが、お見えになるお客様はどんどん取っていくのです。印刷してもなかなか間に合わないくらいに持っていく。これは、どんな人とか、何をやったのかくらいのものなのですが、これはたかだ</p>

	<p>か紙一枚なのですけれども、これを基にして、先ほど示した写真でたどる會津八一の生涯。これを要望した形になるので、これはこれ、写真は写真で別になるかもしれませんが、紙一枚に、それを物語仕立てという大げさですけれども、Qがあってアンサーがあるわけですが、それを文章として構成すると。それはまったくQ&amp;A、質問等の答えですけれども、それを基にふくらませていく考えです。</p>
菊野委員	<p>そうすると、これから児童向けにお作りになるということですね。</p> <p>それから、社員研修の一つとして記念館見学を申し入れを受ける機会があるといった記載があるのですが、今後は、企業にも働きかけることはお考えなのでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>新入社員の若い人が入ってくると、新潟の企業に入ってきて、見渡して文化的なものは何があるのかということの一つとして、名誉市民第一号の會津八一を顕彰しているということを知ってもらえれば、20代の若い人たちが、もちろん県外の人もいるかもしれませんが、そういったところを知ってもらえるのではないかと思います。</p>
菊野委員	<p>これは新規の取組みととらえていいですか。</p>
高岡事務長	<p>それも考えられるのではないかと思います。</p>
菊野委員	<p>私からの最後の質問ですが、限られた人数でこれだけの作業をするのは、いろいろと工夫をされているところかと思うのですけれども、雇用、労働条件等々の確保の面で、労基法に反しない範囲での労働環境は確保できているのでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>広い範囲の話ですけれども、もちろん、夜9時、10時までやっていることはありません。勤務時間は9時～5時というスタイルを基本としまして、土日を含めた休日はきちんと取れております。休館日が毎週月曜でありますから、これは必ず店じまいをしております。それを含めて前後休んでいると。ほかの有給休暇も、あんばいを見ながら取れるようにしておりますし、決してパワハラではありませんけれども、今取ったらどうだとかということはありませんし、家の事情で、子どもの面倒をみるなどがあれば、早く帰ってくれと。午前中、出てくるのが遅くなるけれども、それはどうぞということで、イクメンではないですが、そういったことも奨励しているくらいでありますし、なるべく早く、気持ちよく仕事ができるように、あるいは家庭のことも面倒のことも面倒をみられるようにということを考えております。</p>
木伏委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかの委員の方はいかがでしょうか。</p>
池主委員	<p>プレゼンテーションありがとうございました。さまざま考えられうる方向に努力、工夫をなさって、アプローチなさっているのが大変よく分かりました。お聞きしたい</p>

	<p>のは、申請書の14ページにある主な支出見込で、展示関連支出のところ、2021年度では250万円企画展、2022年度、2023年度230万円ということで、額が上がっているわけですが、これは決まっている企画展があるということでしょうか。それに伴って額が上がっているということでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>5年、10年先を見越した展示を企画するのは難しいものですから、これはあくまでも過去の実績を基にして、企画展というものはだいたいこれくらいかけるもの、かかるものと。特別展はこのくらいかかるであろう、かけたいということで、目安として挙げている数字であります。若干、数字が違うのは、例えば2021年度は會津八一の生誕140年にあたります。その辺は少し支出が多くなる見込で考えております。一つの節目でありますので、そこで何をやるかというのは、具体的にこういう展示をというところまではまだいっておりません。今考えているのは、ここで挙がっているのは展示費用ですが、そういった意味合いからも増えるであろうということ予測した数字で、節目の年度ということであって、あれもやりたい、これもやりたいということは頭の中では考えています。</p>
池主委員	<p>分かりました。ありがとうございました。</p> <p>具体的なことでもないのですが、酒・花・茶ということで、ゆかりの分野ということでいろいろやっていらっしゃることは分かったのですが、料亭に生まれたということで食と何か結びつけるようなイベントなどを企画されたり、ご予定はあるのでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>會津八一がものすごいグルメだったとか、この食べ物にこだわったという魯山人のような人とは少し違って、わりと普通のを食べていけばいいのかなみたいなことで、特に會津八一が思った何というのはあまりないのです。粗食だったそうで、贅沢はしていなかったということです。ただ、一昨年くらいに、私どもが入っているビルのとある食堂が會津八一に関連した八一御膳みたいなものを作ってくれたのだけでも、お客がいなくてすぐにやめましたけれども、會津八一が好んだというようなものが並べられるといいのですが、そういうものがなかなかないようです。柿が好きだったとか、甘い団子が好きだったとかというくらいのもので、これだというものができればいいのですが、今、食材というか、メニューというのは思いつかないです。食べるとか飲むとか、一番人が取っつきやすいところなので、それで引きつけられればやりたいくらいなのですが、今、食材開発は見通せないところなんです。</p>
池主委員	<p>ありがとうございました。</p>

仲川委員	<p>プレゼンテーションありがとうございました。菊野委員、池主委員の質問にも少し関連してくるのですが、いくつか教えてください。まず、申請書の2ページで、達成目標の入館者数なのですが、2021年度のところは、前の年より1割程度増えているのですけれども、これは生誕140年ということで、少し特別展に力を入れたいということなのかと思いますし、それ以降、増えていくのは、減らすわけにはいかないというのはよく分かるのですけれども、それを維持していくというところでの企てといたしますか、企画というのはお考えになっているのでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>今のところ、数字の根拠となるものは実は、この数字に対してはこうだというのははっきりいってありません。ここでいろいろと書きましたものを通じて、これをやれば増えるだろうというものが分かればいいのですけれども、これは言い訳かもしれません。いいなと思っても来ないこともありますし、どうかと思ってもお出でになるお客様もいるときもあります。具体的に、増えたのはどういった根拠かといわれると、実はありません。ここにいろいろ書いてあることを通じて、働きかけを通じて、我々が顔を出して、声をかけてという、集客の工夫というところでしかご返事できないというところがあります。</p>
仲川委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて10ページの人材育成の部分なのですが、會津八一記念館ということではありますが、学芸員の方は八一のことだけを知っていればといいということではないかと思うのですが、さまざまな展覧会、新潟に限らず東京や奈良、京都などであるかと思うのですけれども、そういうところへの研修出張みたいなものはずっと企画といたしますか、予定をされているものなのでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>全国から展覧会の案内が毎日のように舞い込みます。それは、美術分野だとか工芸だとか、いろいろな分野がありますけれども、どうしても書とか歌とか、そういったものを展示しているところへ我々の関心はいくのですけれども、これはあくまでも学芸員個々の興味や関心だとかといったものを大事にしたいと思います。例えば岡山県で何とか美術展があるから行ってこいというわけには、動機づけとかきっかけがありませんので、さまざまな展覧会の案内が来る中で、あくまでも自分のことが現実ですので、そのときに思いついたもの、気がついたものがあって、いいものがあればどんどん行ってというふうにしております。今回の東京の中村屋サロン美術館で會津八一展がありましたので、それを見に行つたついでに、東京といえばあらゆるところに立派な美術館、博物館がありますから、それ以外にも何か所か見てこいということで回っています。機会があればどんどん行って、展示の方法や工夫を見てこいというこ</p>

	<p>とは我々もいわずもがなの課題項目です。美術館以外、協会あるいは上部団体ですとか、そういったところは研修会というものを行います。学芸員研修や展示の方法について勉強するとか、そういったところも行くようにしておりますし、美術館、博物館の展示は大いに見てくるというのが我々の仕事の一部になっております。</p>
仲川委員	<p>続いて 11 ページなのですが、自己評価、内部の評価になるかと思うのですが、入館者数に関して反省点や課題を共有するというところで、職員の間ではもちろんあるかと思うのですが、法人でいらっしゃるの、例えば法人の評議員会、理事会、運営委員会の中で、1年間で振り返ってこうだということ、法人内部の共有というのはいかがでしょうか。</p>
高岡事務長	<p>数は少ないのですが、3月、5月に評議員会、理事会をやって、もちろんその場では、1年間で振り返って、こうでしたよと数字を挙げて、内容について総括的な反省、あるいは企画をした学芸員のコメントを添えて理事の皆さん、評議員の皆さんには開示して、こういうことがありました、こういうことが課題ですということはもちろん共有しています。</p>
仲川委員	<p>あと 1 点お伺いしたいのですが、14 ページに関連して、中高生など若年者に向けて、今後 5 年間で新規の取組みで予定されているものがあれば教えていただきたいと思います。</p>
高岡事務長	<p>取組みといいますか、はじめからいろいろと申しましたけれども、冊子を作って、これを中・高校に差し上げていると。あるいはこれまで作った図録、展覧会の作品集があるのですが、そういったものを高等学校へ贈呈すると。買ってこれというわけにはいきませんので、差し上げて、中学、高校生に、とりあえずは高校生に美術書、あるいは短歌を図書館に置いてもらって、関心のある生徒に見てもらいたいものがあるのですということで図録を、毎年、特別展で 1 冊は作るのですが、それを何冊か、過去のものを合わせて、いってみれば會津八一関連作品集といったものを贈呈して見ようということこれから考えます。</p>
仲川委員	<p>最後になりますが、質問というか、思ったことでもあるのですが、會津八一については、私どもの年代においても、申し訳ないのですがなじみのある方ではなくなっています。生誕 140 年ということもありますので。そういったことを考えたときに、今の小中高生からどのように関心を持ってもらうかというのはすごく大変なことかと思えます。先ほど写真のコンテストをされているという説明があったのですが、歌を詠めということになると、ハードルがすごく高いのですけれども、例えば中高生でも會津八一の歌を予め授業で聞いて、それでイメージしたものを修学旅行先で写真</p>

	に収めてくるとかということであれば、高校生であれば必ずスマホなどを持っているかと思いますが、高校生あたりを対象にした写真コンテストみたいなものも一つ取り組めるのではないかと思いますので、お話しさせていただきました。
高岡事務長	ありがたいなと思います。ありがとうございます。
石本委員	貴重なお話をありがとうございました。私からもいくつか質問ですが、2ページの達成目標ですが、これは過去の実績から出しているという話だったのですが、人口動態の話から考えて少子化が進んでいくとか、2023年度はぎりぎり2020年前半だと思えますが、その先のことを考えて2025年を越えると団塊世代がみんな後期高齢者に入っているのでは、おそらくどんどん出足が鈍っている可能性が高くなっていく中で、過去の実績だったり、目標の達成数数値というのは、例えば年代ごとに見たときにどういった形で来館してほしいのかという、そこまでの分析はされているのでしょうか。
高岡事務長	やはりどうしても50代以降が多いです。半分以上です。6割くらいが50代、60代。30代、40代もお仕事を持っていますから、なかなか出る機会がないということで、今のところ中核になっているのは50代、60代、元気な人が多いですから70代、いわゆる高齢者の前後の方が多いです。今の50代がもう20年経ってもまだ元気だろうと。健康寿命も延びていますから、50代が70代になっても来てくれるということは想定できるわけで、おっしゃるように人口が減っていますから、若い人がどんどん減っている中で、この数字だけが飛び出ているのではないかといわれるかもしれませんが、まだまだ50代、60代、それこそ40代あたりがもう少しゆとりを持ってきてくれれば、今の40代あたりが50代、60代になっても来館者として見込めるのではないかと考えております。
石本委員	来館者や利用者などを考えたときに、新規の人を増やすということもそうなのですが、リピートしている人がどれくらいいらっしゃるかというのは非常に重要な指標だとは思いますが。マーケティングの話だとそれをファンだったりといったりすると思うのですが、リピートの方がどれくらいいるかというのは数えるのが難しいと思うのですが、どのくらいの割合でいらっしゃると思いますか。
高岡事務長	展示においでになる方にはアンケート用紙を渡して、何回来ているかということをチェックしてくれるのですが、1,000人来て1,000人がアンケートに書いてくれないものから、そこは実態としてはどうかとは思いますが、けっこう2回以上、3回、4回という方は多いです。平成29年度のアンケートですと、全体を100として、初めてが約半数です。5回以上というのが22パーセントということで、フ

	<p>ァンの方が多いということです。初めて来てくれた方が二度、三度というふうになって、その辺はどういう来方をしているかまでは分かりませんが、回数的にはそういうことです。</p>
石本委員	<p>ありがとうございます。これも年代別にクロスしていくとおもしろい傾向が見えそうで、今後の参考になりそうですね。</p> <p>学校との連携の話だったのですけれども、先ほど学校にお手紙を送っているという話だったのですが、子どもも知らないと思うのですが、それ以上に校長先生より下の、実際に連れてくる教職員の方が皆さん知らない可能性が高くて、おそらくどこの学校でもそうすけれども、学習指導要領にのっとりて授業を組んでいくので、かついろいろな施設から来てくださいと案内している中で、會津八一というのはどうやって学習指導要領に沿って、どこの授業の何に絡めていくのか、先生が授業の設計を考えられないと、来てもらうのがなかなか難しいのではないかと思うので、その点をどう工夫していくかというのが、もしかしたら大切なポイントではないかとは思いますが。</p>
高岡事務長	<p>そのとおりであります。やはり学校授業というのは1年間、あるいは数年間で、2年先、3年先の修学旅行を決めているという状況がありますし、学校の授業そのものがきっちりしたものができていると。その中で、今日は天気がいいから外に出て會津八一記念館へ行こうなんていうことはあり得ないわけですし、その辺の教育現場の取組みがどのように新潟の文化、文化人、文化施設を学ぶというところを位置づけてくれているかというところが、私ども気が気でないというか、何十という施設がある中で、會津八一だけ見てくれというわけにはいきませんが、学校教育の現場でそのような位置づけがどのようになっているのかというところは、我々の手が届かないところで、今日頼んだら明日来るかということではないし、3月に頼んで5月に来るかというところもそうかもしれないし、その辺はしつこいくらいにやらないと気に止めてもらえないと。</p>
石本委員	<p>ほかの文化施設も同じかもしれませんが、先生と一緒に授業を作っていくとか、そういった研究会などがあると、多分、會津八一だけではなくて、ほかの新潟市の文化施設とか、文化を将来に継承していくきっかけになるのではないかと思いますので、教育委員会と連携できればいいのではないかと感じました。</p>
高岡事務長	<p>全く接点がない中で、どこかが音頭を取ってくれて、施設と結びつけてくれれば、お互いいいと常々思っていて、もどかしい部分でもあります。</p>
石本委員	<p>18 ページの地域貢献のところ、総論的になってしまっていたので、具体的にどのようなことがされているのか、今後、どのようなことを計画していきたいのかとい</p>

	うとことで補足があればぜひいただきたいと思います。
高岡事務長	何をするかよりも、こうあってほしい、こうあるべき的な文章に。今のご質問に答えた中で、学校でこそまずそういう機会をどれだけ設けてもらえるのかというあたりがあったものですから、18 ページの前段の文章になったという背景があります。学校現場への呼びかけ的文章であったと思います。ここでつけ加えることはありません。
木伏委員長	ありがとうございました。 私から何点かご質問いたします。いただいている申請書の8 ページの上から2 段目で、執行機関の理事会とあるのですけれども、年に何回くらい理事会を開催されているのか。代表理事、副理事長1 名と書いてあるのですけれども、前のページの組織図を見たところ、副理事長のお名前が見当たらなかったものですから、どなたなのかなと。とりあえずこの2 点を教えていただきたいと思います。
高岡事務長	定例の理事会は年に2 回、予算を組み立てたとき、事業計画を立てたときに1 回。当該年度が終わり決算、事業報告を審議いただく理事会が1 回。あとは臨時的なものがあります。定例のものは年に2 回、臨時のものとしては、例えば代表理事を選ぶときとか、あるいは大きな支出があるとき、具体的には鑑定によって作品を購入すると。それは100 万円とかうん十万の世界ですので、そういった大きな金額になりますので、それについてはいちいち集まってはもらわないで、書面理事会という格好で理事の皆さんに、これを購入したいということで賛否を求める書面理事会があります。定例のものは年2 回、あとは書面という格好で1 回、あるいは都度に応じて臨時に行われます。 組織図のところは理事長、トップだけを書き入れたわけですし、副理事長というのは代表理事で一人おります。これは新潟市副市長にお願いしています。
木伏委員長	お名前は木村さんですか
高岡事務長	木村勇一副市長です。
木伏委員長	あとについている名簿に入っていらっしゃる方ですね。
高岡事務長	はい。
木伏委員長	分かりました。 同じく8 ページのウの労働条件で雇用形態として、嘱託は館長、事務長、総務係となっていて、その前のページを見ると、館長は非常勤となっていますが、これは非常勤プラス嘱託と考えてよろしいのでしょうか。
高岡事務長	非常勤ということで嘱託ではないということが正しいです。申し訳ございません。

木伏委員長	<p>非常勤なのですね。分かりました。</p> <p>それから、各事業年度ごとの事業報告が3年分ありまして、そこの欄に、27-14。これは平成27年度の実業報告の中の27-14の中に。</p>
高岡事務長	<p>申し訳ありません。私どもの資料は平成27年度が抜けておりまして。</p>
木伏委員長	<p>平成27年度の実業ページではないかと思うのですけれども、その真ん中に、(展示に対する評価) というものがありまして、回答者数560名。これは平成27年で、平成28年の回答者数が319。平成29年度の13ページで、回答者数が349名ということで、560名から319名にアンケート回答者数が減った理由というのは何かあるのかということと、展示に対する評価ということで、展示量の評価とありまして、合計だけを見ていきますと、平成27年度がマイナス15、平成28年度がマイナス15、平成29年度マイナス16ということで、若干増えているのですが、これに対する展示量の評価については今後の対応がもしあるようでしたら教えてもらいたいということと、その下に書いてある接客に対する評価というものがありまして、これは毎年、よい方向に上がってきているのです。特別な人材研修などをされているようでしたら教えていただきたいと思います。</p>
高岡事務長	<p>アンケートの回答数は、来た人には目録と一緒に渡しているのだから、答える環境は同じなのです。ただ、それがなぜ増減するのか、そこまでの分析はしていません。よその館でも、回答者というのは伸びないのですけれども、それだけ動きがあったことについては、その結果を受け止めるしかないというのが実情でありまして、何とか書いてもらえるように、館内に、アンケートにお答えくださいましたかという張り紙をしたりして促してはいるのですけれども、あくまでも任意ですので、書きましたかとか、目の前に突きつけて書かせるわけにはいきませんので、こういった増減は、私どももなぜかという感じがいたします。</p> <p>マイナスの評価部分ですけれども、今、ワンフロアしかないものから、展示の量が少ないという意見は届いております。移転前は独立の建物だったものから、展示のスペースがあったのですけれども、移転後はワンフロアのみということで、量はあるのでしょうけれども、見た目の印象が、点数からすればそれほど変わらないのですけれども、そういったことで評価が80パーセント代になっているのではないかと思います。</p> <p>接客に対しては、お客様が来たらありがとうございますということで復唱をやったりということはありません。特に研修などもやっておりません。普段の個々の心構えだと思います。</p>

木伏委員長	あと2点お願いします。10ページの二つ目の括弧の中に、「総務係」というのがありまして、「月1回の会計監査で税理士の指導を受け、会計上の課題を認識・把握し」、ここまでは分かるのですが、この後の「特に商品在庫の管理（大量在庫品の把握と適正化の方法）について常に意識している」と。この文面の「商品」とか「大量在庫品」というのはどういったものを示されているのかということと、これはだれが指示して、常にだれに意識をさせているのでしょうか。
高岡事務長	商品というのは、私どもで集まっている書籍ですとか、あるいは便せんなどの文房具類ですとか、色紙ですとか、あるいはバッグだとかTシャツだとか、扇子だと書籍及び身の周り品です。大量在庫というのは、毎年、図録を作っております。特別展のために年に1回作っております。それが大量にというのは、数を作らないと、ある値段まで下がらないという部分がありますし、研究資料という意味合いもあって、経済原則からいけば、余分なものを作っていると見えるかもしれないのですけれども、かなりの冊数が残っております。一つには、資料的な意味合いがあって残さなければいけないということ。販売にかかわる関係で、ある程度の量を作らないと買ってもらえるような値段にまで下がらないということで、必然的にたくさん余ってしまうということがあります。それをとっておいたのでは場所もとってどうしようもないものですから、させているというのは、みんなで意識をしているということで、常に気をつけて考えましょうと。いっぱいあるんだよということを常に意識を持ってもらっているということです。
木伏委員長	最後の1点だけお願いします。会計の話なのですが、29-2。平成29年度の2という資料の、財務諸表に対する注記とありまして、1の(3)固定資産の減価償却の方法がありまして、2段目に、器具及び備品は定率法と書いてありますが、平成29年は定率法なのですが、平成27年、平成28年は定額法になっているのですけれども、会計ルールの変更などがあったのでしょうか。
高岡事務長	決算書に関しましては、経理事務所の会計事務所の方、先生に任せておりまして、平成29年度は定率法で、前の年が定額法だったというのは、先生に聞かないと分からないです。
木伏委員長	分かりました。普通の公益法人会計ですよ。原則は一応、こういうものは定額法だと思いましたので、質問させていただきました。
高岡事務長	うちの間違いかもしれません。確認したいと思います。
木伏委員長	ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
渡辺課長補佐	ありがとうございました。

	<p>事務連絡をさせていただきます。当会議の公開はここまでとなります。評価については非公開で実施いたします。申請者の皆様にはここで退席ということでお願いしたいと思います。</p>
高岡事務局長	<p>大変申し訳ないのですが、出した資料で一桁間違えていたところがあります。14ページですけれども、今後の見込の数字の中で、特別展のところは一桁多くなっておりまして、ゼロを取ってもらった数字が正解であります。特別展 3,700 万円ではありません。370 万円です。お粗末な間違いでありました。申し訳ありません。</p>
申請者	<p>&lt;退室&gt;</p>